

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3214125号
(U3214125)

(45) 発行日 平成29年12月21日 (2017.12.21)

(24) 登録日 平成29年11月29日 (2017.11.29)

(51) Int.Cl.		F 1	
B 4 2 D	1/06	(2006.01)	B 4 2 D 1/06
B 4 2 F	5/04	(2006.01)	B 4 2 F 5/04
B 4 2 D	1/02	(2006.01)	B 4 2 D 1/02

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2017-4636 (U2017-4636)
 (22) 出願日 平成29年10月11日 (2017.10.11)

(73) 実用新案権者 504082689
 有限会社篠原紙工
 東京都江東区大島 5-51-13
 (74) 代理人 100110722
 弁理士 齊藤 誠一
 (72) 考案者 篠原 桂介
 東京都江東区大島 5-51-13 有限会
 社篠原紙工内

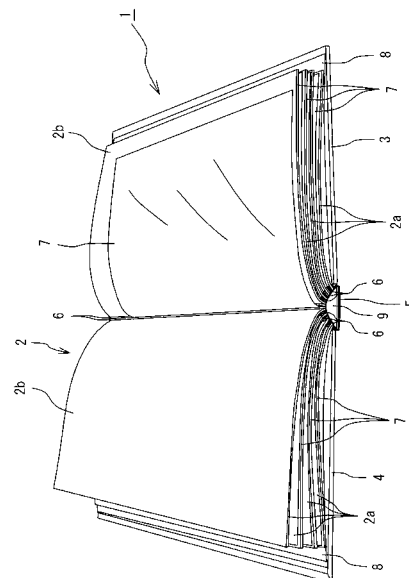
(54) 【考案の名称】 スペーサを備えた冊子

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 写真、ポスター、チケット、レコード、CD等又はその複製物あるいはその他の物件（被保持物）を収納・保持してもその厚みによって型崩れすることがないスペーサを備えた冊子を提供する。

【解決手段】 所定の厚みを有するスペーサ6を冊子1の背5側に配置し、保持用頁7の背5側をスペーサ6に挟持又は保持させると共に、スペーサ6の両側面の全面が隣接して配置された他の保持用頁7又は紙面2bに接着されないようにしたことを特徴とする。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

被保持物を保持するための保持用頁がスペーサを介して綴じ込まれたスペーサを備えた冊子において、

所定の厚みを有するスペーサを前記冊子の背側に配置し、前記保持用頁の背側を前記スペーサに挟持させると共に、当該前記スペーサの両側面の全面が隣接して配置された他の保持用頁又は紙面に接着されないようにしたことを特徴とするスペーサを備えた冊子。

【請求項 2】

被保持物を保持するための保持用頁がスペーサを介して綴じ込まれたスペーサを備えた冊子において、

所定の厚みを有するスペーサを前記冊子の背側に配置し、前記保持用頁の背側を前記スペーサの一方側の側面に保持させると共に、当該前記スペーサの両側面の全面が隣接して配置された他の保持用頁又は紙面に接着されないようにしたことを特徴とするスペーサを備えた冊子。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載のスペーサを備えた冊子において、

所定枚数の紙面と前記スペーサに挟持又は保持させた保持用頁とが交互に綴じ込まれたことを特徴とするスペーサを備えた冊子。

【請求項 4】

請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載のスペーサを備えた冊子において、

本文に貼り込まれた見返しの背側部分を表紙の裏側に貼り合わせることで表紙と本文を接合したことを特徴とするスペーサを備えた冊子。

【請求項 5】

請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載のスペーサを備えた冊子において、

背の様式がホローバックであることを特徴とするスペーサを備えた冊子。

【請求項 6】

請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載のスペーサを備えた冊子において、

背の幅サイズは前記スペーサが配置された背側の厚みとほぼ同じサイズとされていることを特徴とするスペーサを備えた冊子。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、スペーサを備えた冊子に関し、詳しくは、写真、ポスター、チケット、レコード、CD 等又はその複製物、その他の物件を収容可能なポケット等の保持用頁が紙面と紙面の間に綴じ込まれたスペーサを備えた冊子に関する。

【背景技術】**【0002】**

書物一般を示す冊子は、表紙、背、裏表紙、本文（中身）、表紙と本文の間及び裏表紙と本文の間に配設された見返しを備えて構成されている。そして、例えば、見本帳やアルバムのような冊子の場合には内部に見本となる物件や写真などを保持するための袋状のポケットや所定のサイズの写真が収容可能な大きさのポケットが複数設けられた台紙などの保持用頁が綴じ込まれた状態で製本されている。一方で、例えば、有名芸能人の伝記や活動などを記録したファン向けの本の場合には紙面と紙面の間に袋状のポケットが綴じ込まれ、そのポケットの中にゆかりのある写真、ポスター、チケット、レコード、CD 等又はその複製物あるいはその他の物件（被保持物）を収容・保持させた冊子も提供されている。

【0003】

これらの冊子のように、紙面と紙面の間に綴じ込まれたポケット台紙のような被保持物を保持するための保持用頁に種々の被保持物を保持させた場合には本体が膨らんでしまい、表紙が歪んだり、被保持物の重さによって本体が表紙から脱落してしまうおそれがある

10

20

30

40

50

。そのため、冊子の中に保持用頁を綴じ込んだ冊子の場合には被保持物の厚みを予め考慮して製本することが行われている。そのような冊子としては、例えば、特許文献 1, 2 に示すものがある。特許文献 1 は見本帳を開示しており、この見本帳は表紙とその中に綴じ込まれる複数の台紙を備え、背表紙側の基端側の台紙と台紙の間に接着剤を所定の厚みに塗布し、この接着剤をスペーサとして利用することにより、台紙に貼付されるタイルなどのサンプルの厚みをカバーできるようにしたものである。

【0004】

また、特許文献 2 は台紙帳を開示しており、この台紙帳は、特許文献 1 の見本帳と同様に、接着剤をスペーサとして利用し、台紙を一定間隔に保持し、且つ背表紙と平行に帯状の厚紙を台紙相互間の背表紙の近傍に配設したものである。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】特開 2000-343856 号公報

【特許文献 2】実公昭 63-25176 号

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、上述した特許文献 1, 2 の構成は、いずれも接着剤をスペーサとして用いものであるため、接着剤を所定の厚みに調整することが難しいという問題がある。また、特許文献 2 の図 4 において従来例として示された台紙帳は、背側にスペーサとしての厚紙を配置した構造となっているが、スペーサの側面部は両面とも全て接着されているので台紙を大きく開くのに困難性があり、台紙を無理に開くとスペーサ部分が剥がれてしまうおそれがある。そのため、引用文献 2 の図 5 に示す従来例では折り曲げ部分に可撓性のよいフィルムを介在させて折り曲げやすくしたものであるが、フィルム部分は非常に脆弱であるため被保持物を収納・保持した状態では被保持物の重さによってフィルムが歪んでしまい、保持用頁が表紙からはみ出してしまいうおそれがある。

【0007】

そこで、本考案は、かかる問題点に鑑みなされたもので、紙面と紙面の間に綴じ込まれた保持用頁に写真、ポスター、チケット、レコード、CD 等又はその複製物あるいはその他の物件（被保持物）を収納・保持することが可能であって、被保持物の厚みによって表紙が歪むこともなく、しかも被保持物の重みによって表紙から本体部分が脱落することのないスペーサを備えた冊子を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記課題を解決するために請求項 1 に記載の本考案は、被保持物を保持するための保持用頁がスペーサを介して綴じ込まれたスペーサを備えた冊子において、所定の厚みを有するスペーサを前記冊子の背側に配置し、前記保持用頁の背側を前記スペーサに挟持させると共に、当該前記スペーサの両側面の全面が隣接して配置された他の保持用頁又は紙面に接着されないようにしたことを特徴とする。

【0009】

上記課題を解決するために請求項 2 に記載の本考案は、被保持物を保持するための保持用頁がスペーサを介して綴じ込まれたスペーサを備えた冊子において、所定の厚みを有するスペーサを前記冊子の背側に配置し、前記保持用頁の背側を前記スペーサの一方側の側面に保持させると共に、当該前記スペーサの両側面の全面が隣接して配置された他の保持用頁又は紙面に接着されないようにしたことを特徴とする。

【0010】

上記課題を解決するために請求項 3 に記載の本考案は、請求項 1 又は 2 に記載のスペーサを備えた冊子において、所定枚数の紙面と前記スペーサに挟持又は保持させた保持用頁とが交互に綴じ込まれたことを特徴とする。

【0011】

上記課題を解決するために請求項4に記載の本考案は、請求項1から3のいずれか1項に記載のスペーサを備えた冊子において、本文に貼り込まれた見返しの背側部分を表紙の裏側に貼り合わせるにより表紙と本文を接合したことを特徴とする。

【0012】

上記課題を解決するために請求項5に記載の本考案は、請求項1から4のいずれか1項に記載のスペーサを備えた冊子において、背の様式がホローバックであることを特徴とする。

【0013】

上記課題を解決するために請求項6に記載の本考案は、請求項1から4のいずれか1項に記載のスペーサを備えた冊子において、背の幅サイズは前記スペーサが配置された背側の厚みとほぼ同じサイズとされていることを特徴とする。

【考案の効果】

【0014】

本考案に係るスペーサを備えた冊子によれば、冊子の背側に所定の厚みを有するスペーサを配置して紙面と紙面との間又は保持用頁と保持用頁との間にスペーサを介在させると共に、スペーサの両側面の全面が隣接する紙面又は保持用頁に接着されないようにしたので保持用頁に被保持物を収納又は保持してもスペーサによって被保持物の厚みが確保され、表紙が変形することなくしっかりと保持されるという効果がある。その結果、本文が表紙から脱落するおそれがない。また、スペーサの両側面の全面が隣接する紙面又は保持用頁に接着されていないのでページめくりの際にも支障が生じることがなく、しかも、背側の接着が保持されているので冊子としての形状も確実に保つことができる効果がある。

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】本考案に係るスペーサを備えた冊子の好ましい一実施形態を示す斜視図である。

【図2】スペーサ及びポケットの詳細を示す下部側の斜視図である。

【図3】表紙の内側の構成を示す斜視図である。

【図4】冊子の他の実施形態を示す断面図である。

【図5】ポケットに被保持物を収納した状態を示す上部側の斜視図である。

【図6】ポケットに被保持物を収納した状態を示す平面図である。

【考案を実施するための形態】

【0016】

〔上製本の構成〕

以下、本考案に係るスペーサを備えた冊子について、好ましい一実施形態に基づいて詳細に説明する。図1は、本考案に係るスペーサを備えた冊子の実施の形態を示す断面図、図2はスペーサ及びポケットの詳細を示す下部側の斜視図である。図示されたスペーサ付き冊子（以下、単に「冊子」という。）1は、概略として、複数の紙面2bからなる丁合2aと、それぞれの丁合2aと丁合2aの間に配置された複数のスペーサ6と、スペーサ6の間に挟持されるようにして綴じ込まれた保持用頁であるポケット7と、複数の丁合2aとポケット7によって構成される本文2と、本文2の一方側の面を覆う表紙3と、本文2の反対側の面を覆う裏表紙4と、本文2の背面を覆うように表紙3及び裏表紙4に連結させて設けられた背5を備えて構成されており、その製本様式は無線綴じ又は網代（あじろ）綴じによる上製本とされている。

【0017】

本文2は、N枚（例えば7枚）の紙面2bからなる丁合2aが1つのブロックとされ、この丁合2aが全体でM個（例えば、9個）からなり、その丁合2a毎に1つのポケット7が介挿されている。そして、各紙面2bには文章、イラスト、写真等が印刷されている。尚、紙面2bの全てを印刷物とすることなく、一部又は全部を白紙とすることにより、ユーザが自由に詩歌、感想文、メモ等を記入できるように構成することも可能である。各紙面2bの紙質、紙厚等は耐久性、用途等を考慮して適宜に決定される。また、表紙3及

び裏表紙 4 は同一体裁とされた厚紙等により形成され、その内側には見返し紙 8 が取り付けられている。そして、見返し紙 8 は、図 3 に示すように、本文 2 に綴じ込まれた見返し紙 8 の背 5 側部分が表紙 3（裏表紙 4）の裏側に貼り付けられ、高級な仕上がり感が得られる上製本とされている。さらに、表紙 3、裏表紙 4 及び背 5 には、表面に布を貼り付けたり、カバーを付属させたり、さらには、帯びと称する本を宣伝するための帯状の紙片を表紙 3 から裏表紙 4 にかけて取り付けすることもできる。さらに、葉が付けられることもある。また、表紙 3 及び裏表紙 3 の背 5 側には縦方向に溝 8 a、8 a がそれぞれ設けられており（図 6 参照）、ページめくりが容易となるようにされている。

【0018】

背 5 は、図 2 に示すように、冊子 1 の開閉が容易に行なえるように腔背（ホローバック）9 とされている。尚、本実施形態ではホローバックを角背（かくぜ）タイプとしているが丸背（まるぜ）タイプであってもよく、また、本文 2 の紙面 2 b の紙質、厚み等によってはホローバックに代えてタイトバック、フレキシブルバック等とすることもできる。本実施形態の場合にはページを開いたときの開き易さや背の接着部にかかる負荷などの点からホローバックしている。背 5 の幅サイズは本文 2 のスペーサが配置された背 5 側の厚みとほぼ同じサイズとされている。

【0019】

スペーサ 6 は、紙面 2 b の印刷範囲にあまり影響を与えない程度の幅サイズ（紙面 2 b が 210 mm × 297 mm の A4 サイズの場合には、例えば、7 mm 程度）で、背 5 の長さ（297 mm）と等しい長さ、所定の厚み（例えば、2 mm）を有する厚紙が用いられ、各丁合 2 a との間に共に綴じ込まれている。スペーサ 6 が存在することによって所定の被保持物をポケット 7 内に収納しても被保持物の厚みが確保されるので冊子が分厚い状態（特に、小口側が開く状態）となり、表紙 3 や裏表紙 4 が変形することが防止される。また、背 5 側の接着部分に負荷がかからないので本文 2 と背 5 とがしっかりと保持され、本文 2 が脱落する懸念が解消されている。尚、スペーサ 6 及びポケット 7 が設けられていることにより、ポケット 7 に被保持物が収納・保持されていない場合には各丁合 2 a 間の背 5 側にはスペーサ 6 の厚みとポケット 7 の厚み分の隙間が生じている。本実施形態では、スペーサ 6 は縦方向に切り込みが形成されており、その切り込みの間にポケット 7 が挟持されている。

【0020】

また、スペーサ 6 は、図 4 に示すように、縦方向に 2 分されたものではなく、1 つの厚紙として配置することもできる。この場合、ポケット 7 はスペーサ 6（図 4 参照）の一方側の側面に沿って取り付けられる。尚、本実施形態におけるポケット 7 の仕様、形状等は二分されたスペーサ 6 を用いる場合と同様であり、配置する数も同じとすることができる。尚、ポケット 7 はスペーサ 6 の両側面のうちのいずれか一方側に取り付けることができる。また、スペーサ 6 の両側面の全面は隣接して配置された他のポケット 7 又は紙面 2 b に接着されないようにされており、これによりページめくりの際に、スペーサ 6 部分に負荷がかからないようになっている。この場合、スペーサ 6 の両側面の全面の全てが隣接して配置された他のポケット 7 又は紙面 2 b に接着されないことを意味するのではなく、スペーサ 6 の側面の背 5 側の一部が隣接して配置された他のポケット 7 又は紙面 2 b に接着されてもよいことを意味する。

【0021】

ポケット 7 は、内部に収納物を収納可能な袋状に形成され、上部側に開口部が位置するようにして丁合 2 a と丁合 2 a の間の数カ所（例えば 7 箇所）に配置されている。また、ポケット 7 は、図 1 に示すように、その背 5 側の長さが紙面 2 b の長さ（A4 サイズであれば縦方向の長さである 297 mm）よりもやや短いサイズとされ、紙、セロファン紙、ポリ塩化ビニール、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステル、ナイロン等を素材にして上方が開口した袋状に形成されている。ポケット 7 は、内部に何も収納していない状態で、且つ、上冊子 1 を起立させて本文 2 を開いた状態としても自重で型崩れが生じないような素材とするのが望ましいが、ポケット 7 を構成する素材は収納物の厚みや大きさ、

10

20

30

40

50

重さ等に応じて適宜選択することができる。また、ポケット 7 に収納された収納物を視認できるようにしたい場合には、ポケット 7 を半透明や透明な素材によって形成する。さらに、ポケット 7 は、異なる複数の着色とし、色ごとに収納品を仕分けできるようにすることもできる。本実施形態の場合には保持用頁として袋状のポケット 7 としたが、保持用頁はポケット 7 に限らず、例えば、写真を収納可能な収納部を複数備えた台紙や、台紙の表面に貼剥可能なフィルムが設けられたアルバム用台紙など、被保持物を保持可能な機能を有する頁を保持用頁として綴じ込むことができる。また、丁合 2 a を綴じ込まずに全てを保持用頁であるポケット 7 とスペーサ 6 によって製本することもできる。

【0022】

上述した冊子 1 は、例えば、一世を風靡したアイドル、歌手、俳優等の活動を記録した出版物として発行される。この場合、各紙面 2 b には伝記やエピソード、実績などが記載されると共に、ポケット 7 にはゆかりのある写真、ポスター、チケット、レコード、CD 等又はその複製物あるいはその他の物件が被保持物として収納又は保持されて発行される。図 5、6 にポケット 7 の内部に被保持物 10 を収納した状態を示す。

【0023】

〔実施形態の効果〕

本実施形態に係るスペーサを備えた上製本によれば、図 1 及び図 2 に示すように、ポケット 7 が綴じ込まれる背 5 側に所定の厚みを有するスペーサ 6、6 を配置し、保持用頁としてのポケット 7 をスペーサ 6、6 で挟持又はその一方側の側面に保持させたので、ポケット 7 に収納物を納めてもその厚みを確保できるので冊子 1 の形状が保持されるという効果がある。また、スペーサ 6 の両側面の全面が隣接して配置された他のポケット 7 又は紙面 2 b に接着されないようにしたのでページがめくり易く紙面 2 b の開閉が容易に行なえるという効果がある。

【0024】

また、本実施形態に係るスペーサを備えた上製本によれば、本文 2 を構成する所定枚数の紙面 2 b とスペーサ 6 とが交互に綴じ込まれていることにより、分厚い収納物や多数の収納物がポケット 7 内に収納された場合でも、本全体が分厚くなったり、小口側が背 5 側より開いた状態になるのを防止できるという効果がある。

【0025】

また、本実施形態に係るスペーサを備えた上製本によれば、本文 2 に貼り込まれた見返し紙 8 の背 5 側部分を表紙 3 及び裏表紙 4 の裏側に貼り合わせて表紙 3 及び裏表紙 4 と本文 2 を接合したので、並製本に対して仕上がりの高級化や美観を高めることができるという効果がある。

【0026】

また、本実施形態に係るスペーサを備えた上製本によれば、背 5 の様式をホローバック 9 としたことにより、背 5 側の接着部分に負荷がかからず本文 2 が抜け落ちることが防止されるという効果がある。

【0027】

また、本実施形態に係るスペーサを備えた上製本によれば、背 5 の幅サイズはスペーサ 7 が配置された背 5 側の厚みとほぼ同じサイズとされているので、被保持物を保持させても保持させなくても通常の書籍（本）と何ら変わらない装幀とすることができるという効果がある。

【0028】

〔他の実施の形態〕

なお、本考案は、上記実施例に限定されず、本考案の技術思想を逸脱あるいは変更しない範囲内で種々な変形が可能である。

【産業上の利用可能性】

【0029】

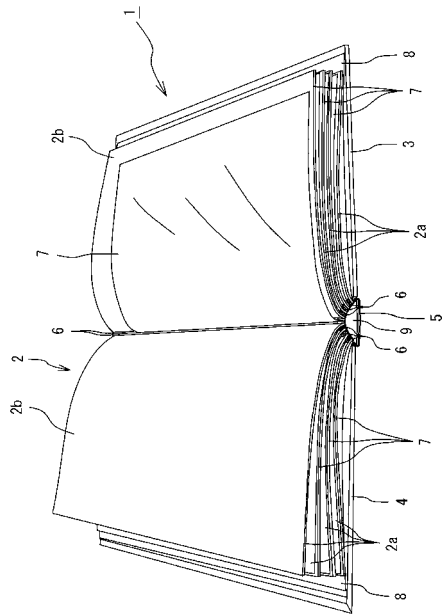
以上のように、好ましい各実施形態について説明したが、本考案に係るスペーサを備えた上製本は、アルバム、見本帳等に採用可能である。

【符号の説明】

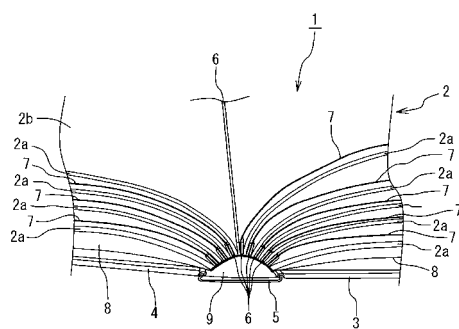
【0030】

- 1 冊子
- 2 本文
- 2 a 丁合
- 2 b 紙面
- 3 表紙
- 4 裏表紙
- 5 背
- 6 スペーサ
- 7 ポケット
- 8 見返し紙
- 9 腔背（ホローバック）
- 10 被保持物

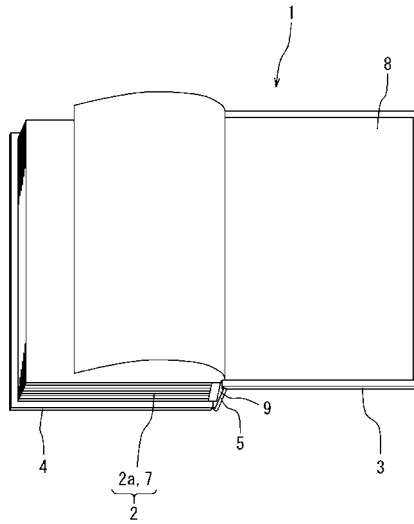
【図 1】



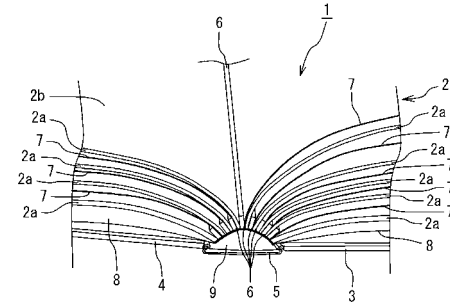
【図 2】



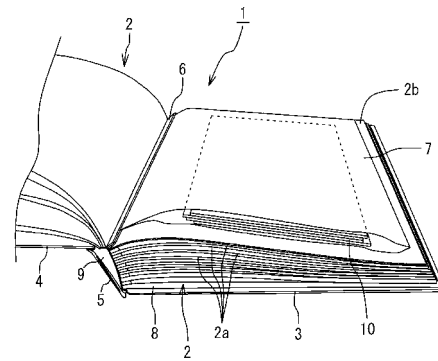
【 図 3 】



【 図 4 】



【图 5】



【 図 6 】

